

品川区コロナ禍における 区民の健康に関する調査 報告書

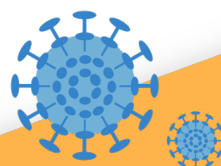
I. はじめに

新型コロナウイルス感染症の流行は、皆様の日常生活や健康への長期的な影響を及ぼす可能性が指摘されています。また、新型コロナウイルスに感染すると、療養期間以降も長引く症状（以下、罹患後症状）や合併症の併発などをきたす可能性が報告されています。しかし、その実態やリスク要因についてはいまだ不明な点が多いのが現状です。そこで、品川区保健所の協力のもと、国立国際医療研究センター、筑波大学、大阪大学が共同で、品川区在住で新たにコロナウイルスに感染した方と、非感染者の方を対象とし、コロナ禍における心身の健康状態や社会的状況、新型コロナウイルスに感染した方の回復状況などについて実態調査を行いました。本調査の結果が、皆様の健康や暮らしの実態をお示しし、今後の対策を考える上でお役に立てればと願っております。本調査は、厚生労働科学研究費補助金新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業（JPMH21HA2011）を受けて実施いたしました。

今回の調査で明らかとなった点は以下のとおりです。

- 1) 新型コロナウイルスに感染した方のうち1割強で罹患後症状がみられました。
- 2) 罹患後症状に多い症状は、咳、集中力の低下、脱毛でした。
- 3) 罹患後症状のある人では、非感染者よりもより生活や経済状況に影響がある傾向が示されました。

以下、調査結果の詳細をお示しします。



II. 調査概要

調査対象

品川区在住者で令和4年7月～8月に新型コロナウイルス感染症に罹患した区民の方々および非感染者の区民の方々。

調査主体

本調査は、品川区保健所と国立国際医療研究センター、筑波大学、大阪大学が共同で行いました。

調査期間

令和5年1月から令和5年2月。

財源

本調査は、厚生労働科学研究費補助金新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業（JPMH21HA2011）を受けて実施いたしました。

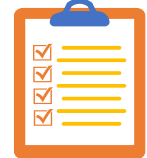
調査方法

郵送による本調査に関するご案内を配布し、研究参加への同意が得られたの方々に対する、インターネットによる調査を実施いたしました。

配布・回収結果

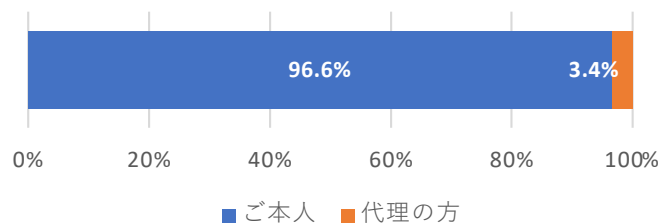
1. 回答者数

	配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
感染者	25,911件	9,668件	8,880件	32.3%
非感染者	25,911件	8,515件	6,318件	24.4%
合計	51,822件	18,183件	15,198件	29.3%



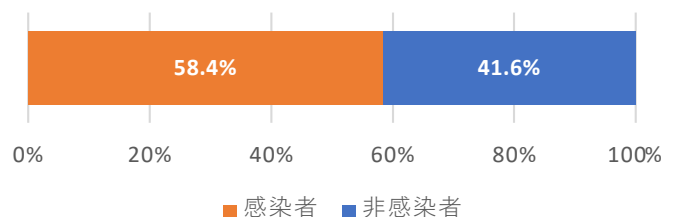
2. 回答者

本研究の回答者の9割以上がご本人による回答でした。



3. 感染の有無

本研究の全回答者のうち、約6割が新型コロナウイルスに感染したことがありました。

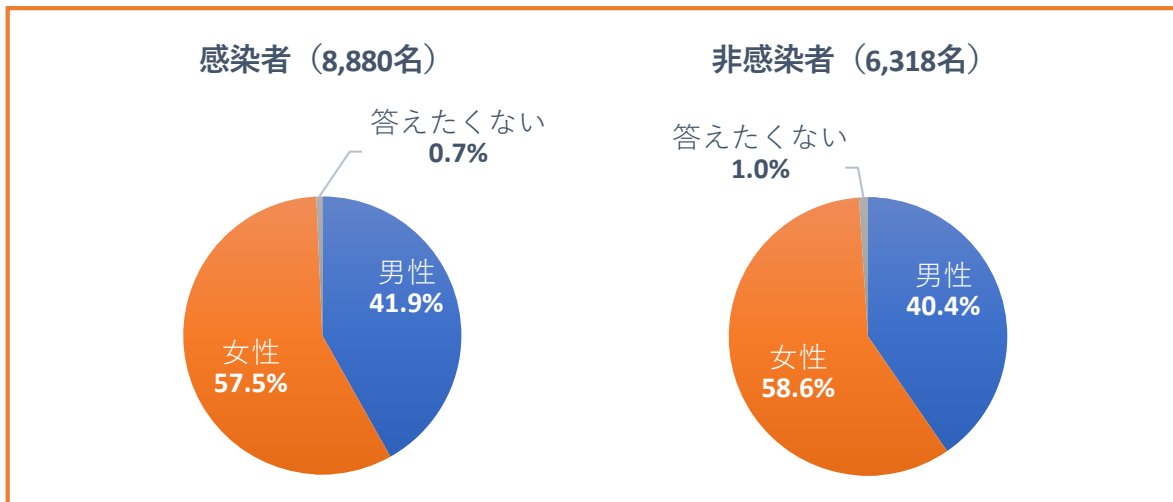


III. 調査回答の概要

回答者の属性

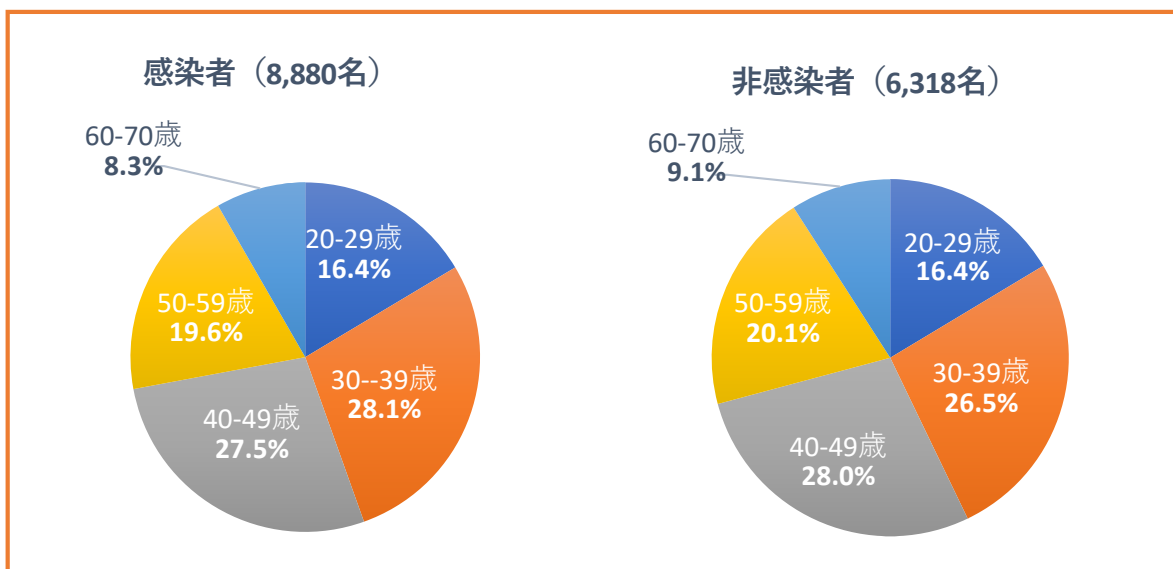
1. 性別

新型コロナウイルスに感染したことがある回答者（感染者）と、感染したことがない回答者（非感染者）の集団にわけて分析した結果、感染者、非感染者ともに、女性が約6割を占め、感染者と非感染者の間で性別の違いはありませんでした。



2. 年齢

新型コロナウイルス感染者と非感染者ともに、30歳から49歳の回答者が半数以上を占め、感染者と非感染者の間で年齢層の違いはありませんでした。

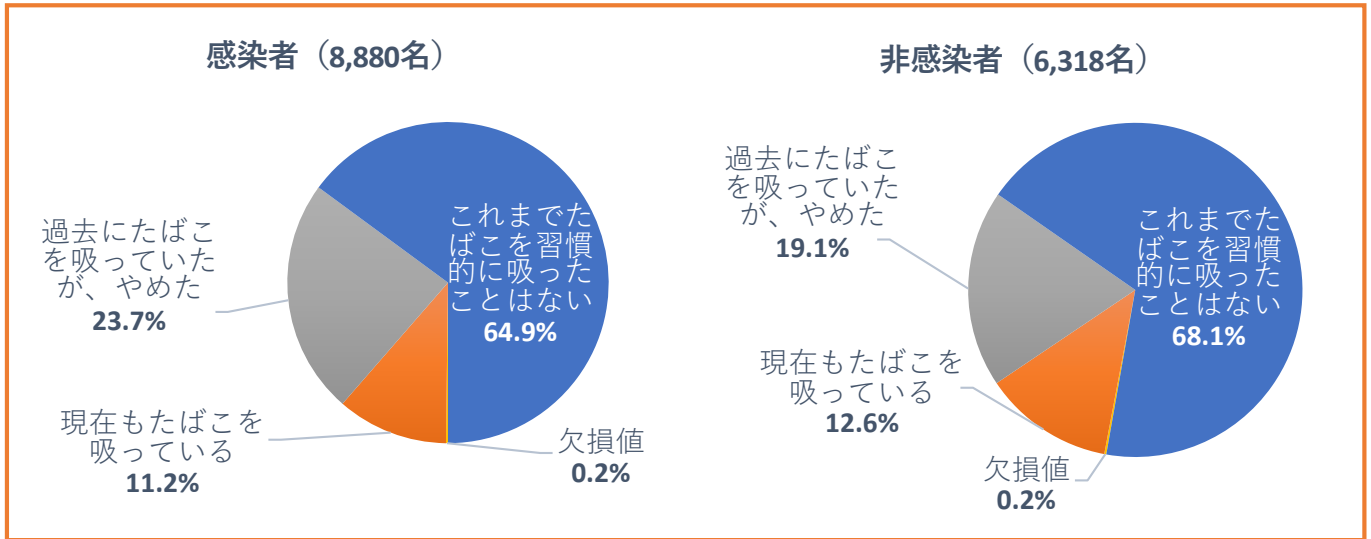


3. 社会経済状況

新型コロナウイルス感染者と非感染者との間で、世帯収入、学歴、職業、雇用形態などに大きな違いはありませんでした。

4. 喫煙

感染者および非感染者共に、たばこ（紙巻たばこ、加熱式たばこ、電子タバコ）を吸ったことのない方は6割強、現在も喫煙している方は1割と大きな違いはありませんでした。一方、過去にたばこを吸っていたが現在はやめた方の割合は、感染者は23.7%、非感染者は19.1%と感染者の方が高い結果となりました。

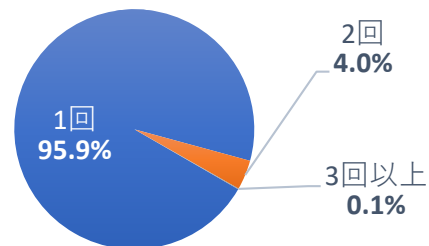


新型コロナウイルス感染状況

1. 感染回数

新型コロナウイルスに感染したことがある方の中で、これまでに新型コロナウイルス感染症と診断された回数は、1回の方が大多数を占めました。

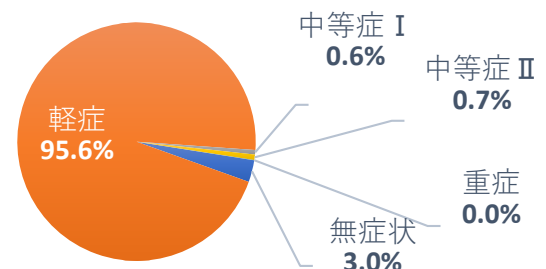
感染回数（感染者8,880名）



2. 重症度

新型コロナウイルスに感染したことがある方の3%が無症状でした。症状があった方の9割以上が軽症であった一方、0.7%の方は酸素投与が必要となる中等症Ⅱに該当し、集中治療室での治療や人工呼吸器が必要となる重症化した感染者の方は0%でした。

重症度（感染者8,880名）

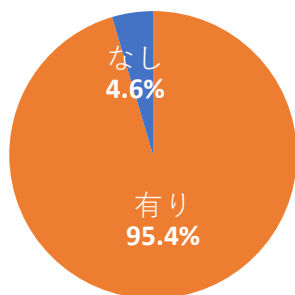


- 軽症** : 酸素飽和度96%以上、呼吸器症状なし（または呼吸困難なし）。
中等症Ⅰ : 酸素飽和度93~96%、呼吸困難・肺炎の所見あり。
中等症Ⅱ : 酸素飽和度93%以下、酸素投与必要。
重症 : 集中治療室における治療または人工呼吸器が必要。

（新型コロナウイルス感染症診療の手引き第9.0版より）

3. 療養中*の症状

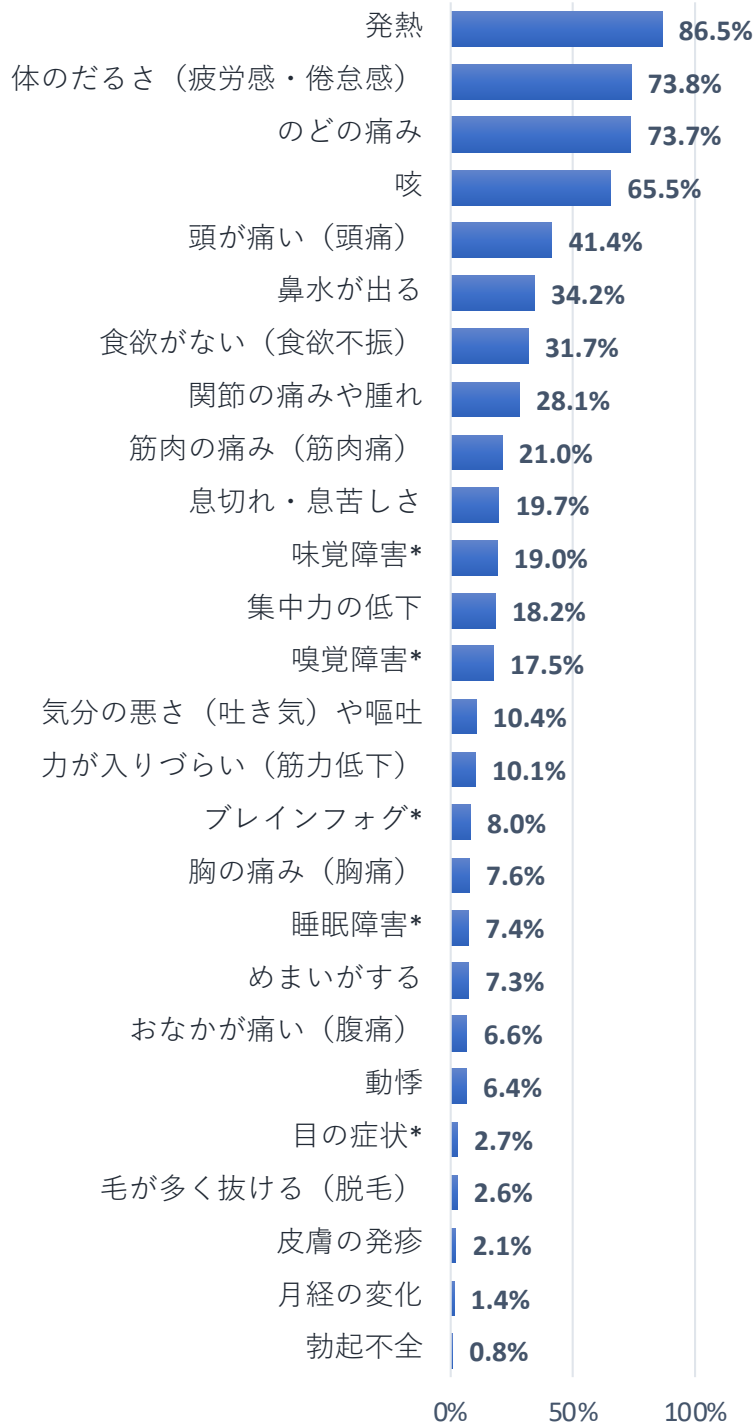
いずれかの症状の有無
(感染者8,880名)



- 新型コロナウイルスに感染したことがある方のうち、療養中にいずれかの症状があった方は95.4%で、感染者の大多数の方がいずれかの症状がありました。
- 療養中にいずれかの症状があった方のうち、一番多かった症状は、発熱、続いて体のだるさ、のどの痛み、咳で、いずれも7割以上の方にみられました。
- 次いで、療養者の3～4割に見られた症状は、頭が痛い、鼻水が出る、食欲がない、関節の痛みや腫れでした。



療養中の症状（感染者8,880名）



*療養中 : 新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付け変更以前に、新型コロナウイルスに感染した方が、ウイルス排出の可能性のある期間に、自宅・療養ホテル・病院にて隔離をしながら健康観察を行っていたこと。

*味覚障害 : 味の感じ方が以前と比べておかしい。

*嗅覚障害 : 匂いの感じ方が以前と比べておかしい。

*ブレインフォグ : 脳に霧がかかったような状態のことで「ぼんやりしている」、「混乱している」、「新しくものを覚えることが難しい」、「優柔不断」、「しっかり考えられない」などの状態。

*睡眠障害 : なかなか寝つけない、夜間や早朝に目が覚める。

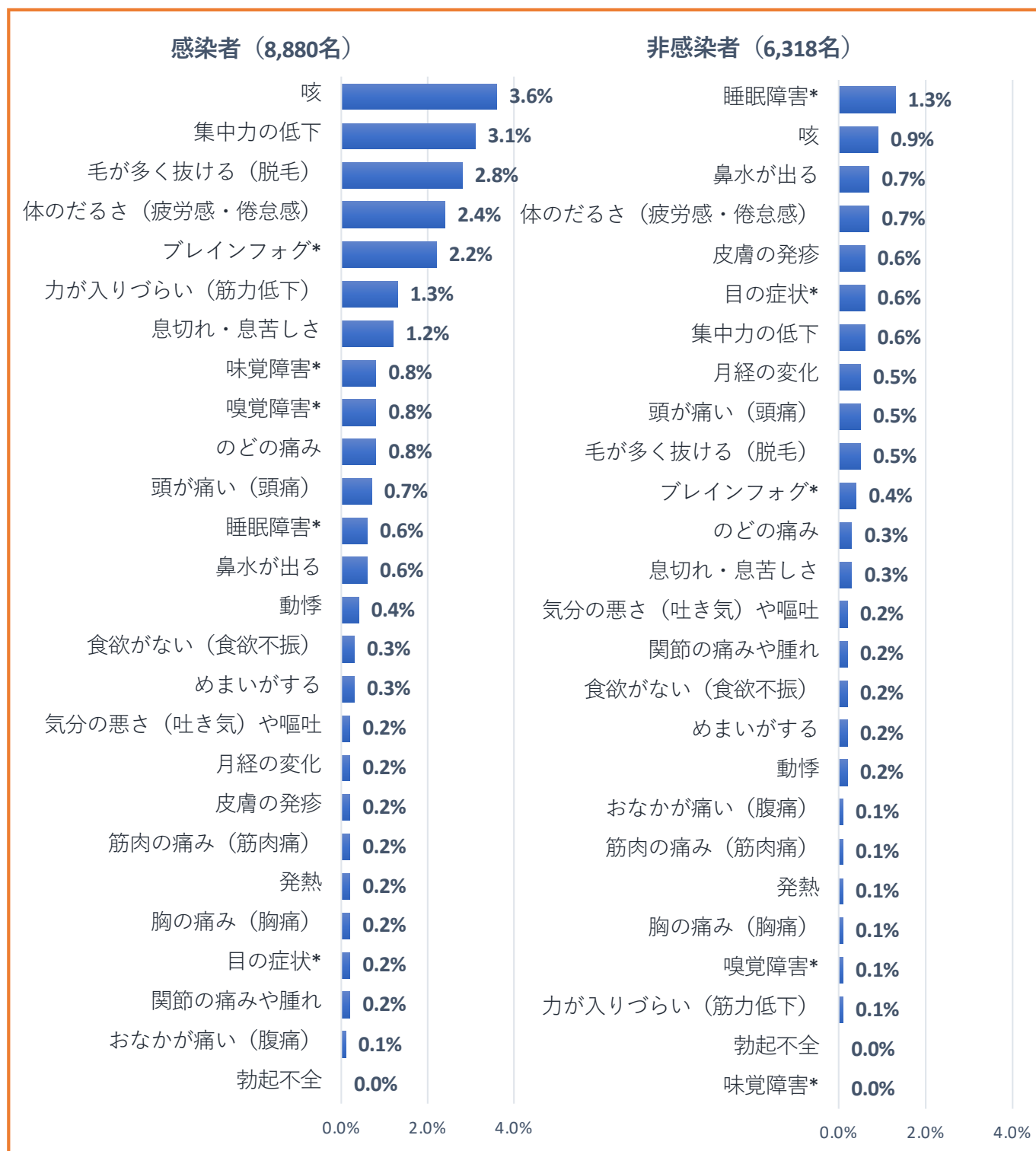
*目の症状 : 目の痛み、痒み、異物感、充血、涙目、目やに、かすみ目、見えづらいといった症状。

新型コロナウイルス感染後の長引く症状

1. 新型コロナウイルス感染後の長引く症状（罹患後症状）

新型コロナウイルスに感染した方のうち、療養期間中にあり、2ヶ月以上続く症状（集中力の低下、ブレインフォグ、脱毛、筋力低下については療養期間中～回答時点までの間で2ヶ月以上続いた症状）は11.7%にみられました。

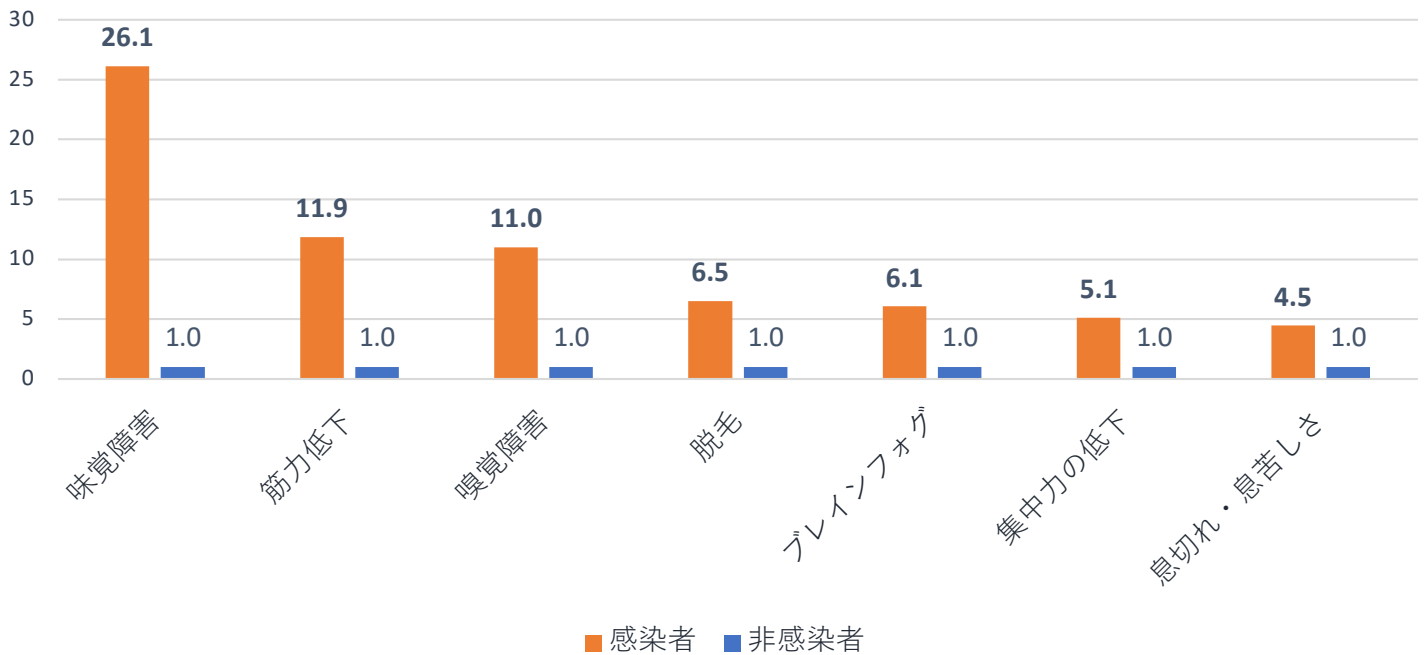
一方、新型コロナウイルスに感染したことがない方では、2022年7月から回答時まで、2ヶ月以上続いた症状は5.5%でした。



感染者の方の中で多い症状は、咳、集中力の低下、毛が多く抜ける、体のだるさ、ブレインフォグでした。非感染者の方の中で多い症状は、睡眠障害、咳、鼻水が出るでした。

感染者に特徴的な症状として、味覚障害、力が入りづらい、嗅覚障害、毛が多く抜ける、ブレインフォグ、集中力の低下、息切れ・息苦しさがあり、非感染者に比べて5～26倍多くみられました。

非感染者を1とした場合の感染者の症状の頻度

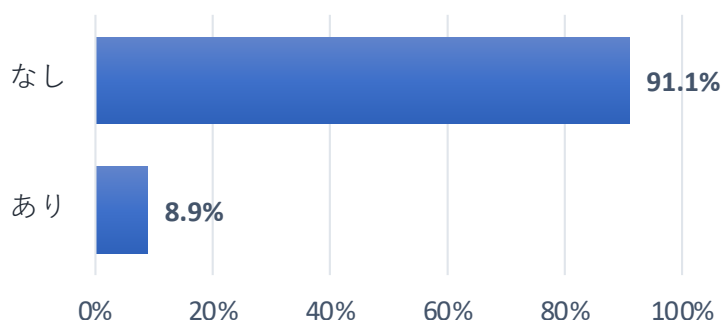


- *睡眠障害 : なかなか寝つけない、夜間や早朝に目が覚める。
- *目の症状 : 目の痛み、痒み、異物感、充血、涙目、目やに、かすみ目、見えづらいといった症状。
- *ブレインフォグ : 脳に霧がかかったような状態のことで「ぼんやりしている」、「混乱している」、「新しくものを覚えることが難しい」、「優柔不断」、「しっかり考えられない」などの状態。
- *嗅覚障害 : 匂いの感じ方が以前と比べておかしい。
- *味覚障害 : 味の感じ方が以前と比べておかしい。

2. 新型コロナウイルス感染後に出現した症状に対する治療状況

新型コロナウイルス感染者のうち、感染後に出現した症状に対して、現在も治療をしている方は、感染後に症状があった方1,041名の93名（8.9%）でした。そのうち、約9割の方が通院治療、約1%の方が入院治療をしていました。

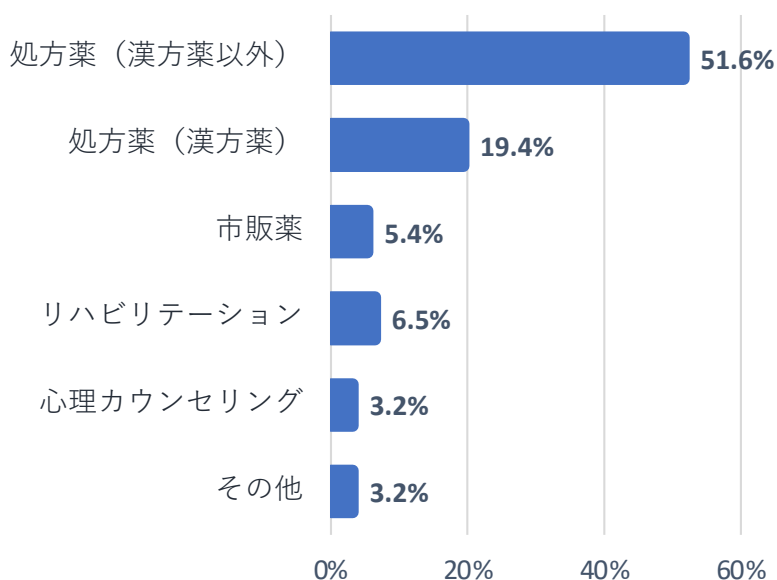
罹患後症状に対する治療状況（1,041名）



治療内容

治療内容をみると、処方薬（漢方薬以外）が5割、処方薬（漢方薬）が2割でした。

治療内容（93名）

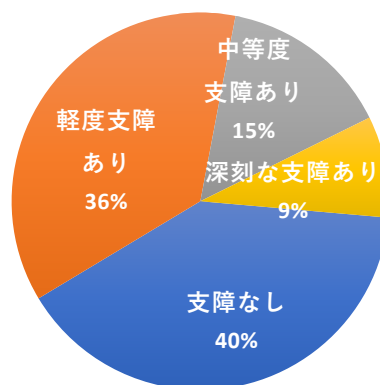


3. 新型コロナウイルス感染後に出現した症状による現在の日常生活への支障度

新型コロナウイルス感染者の方のうち、罹患後症状のある方に、感染後に出現した症状によって、現在の日常生活に生じている支障度を10段階にて評価をしていただきました。

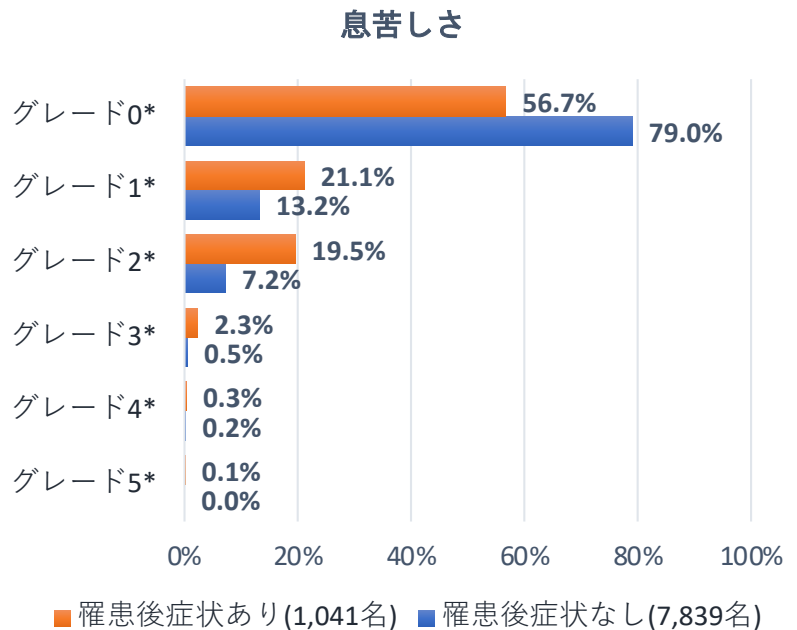
現在も感染後の症状によって日常生活に影響が生じている方が6割と過半数を占め、中でも日常生活に中等度の支障がある方が15%、深刻な支障がある方が9%おられました。

罹患後症状による現在の日常生活への支障度（1,041名）



1. 「息苦しさ」の程度

新型コロナウイルス感染者の方に、回答時の「息苦しさ」の程度について伺いました。感染者の方のうち、罹患後症状（新型コロナウイルス感染後に出現した症状）のある方はない方に比べて、息苦しさの程度が強いこと（グレード1～3の割合が多いこと）がわかりました。



*グレード0: 息苦しさはない。

*グレード1: 激しい運動をした時だけ息切れがある。

*グレード2: 平坦な道を早足で歩く、または緩やかな上り坂を歩くときに息切れがある。

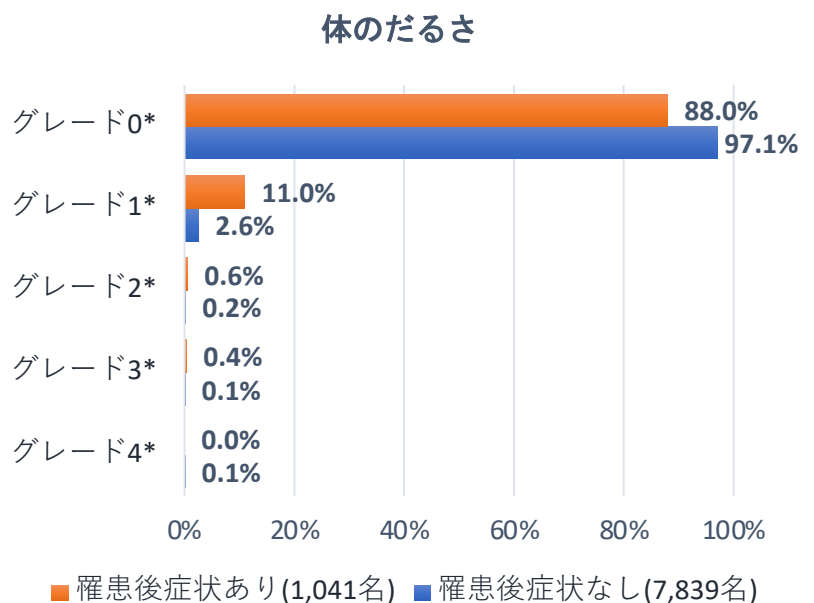
*グレード3: 平坦な道で同年代の方よりも歩くのが遅い、自分のペースで歩いているにもかかわらず、息継ぎのため休む。

*グレード4: 平坦な道を約100mまたは数分歩くと息切れのために立ち止まる。

*グレード5: 息切れがひどく外出できない、あるいは衣服の着替えをするときにも息切れがある。

2. 「体のだるさ」の程度

新型コロナウイルス感染者の方に、現在の「体のだるさ」の程度について伺いました。感染者の方のうち、罹患後症状のある方はない方に比べて、グレード1以上の割合が多いことがわかりました。



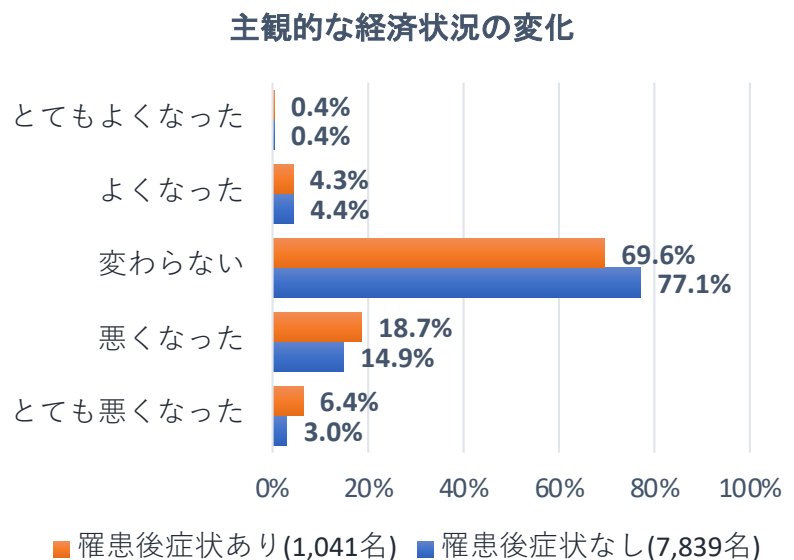
- * グレード0: まったく問題なく活動できる。新型コロナ感染前と同じ日常生活が制限なく行える。
- * グレード1: 肉体的に激しい活動は制限されるが、歩行可能で、軽作業（軽い家事、事務作業など）や座っての作業は行うことができる。
- * グレード2: 歩行可能で、自分の身のまわりのことは全て可能だが、作業はできない。日中の50%以上はベッド外で過ごす。
- * グレード3: 限られた自分の身のまわりのことしかできない。日中の50%以上をベッドか椅子で過ごす。
- * グレード4: まったく動けない。自分の身のまわりのことはまったくできない。完全にベッドか椅子で過ごす。

現在の生活状況

新型コロナウイルス感染者の方に、現在の生活状況について伺いました。感染者の方のうち、罹患後症状（新型コロナウイルス感染後に出現した症状）のある方とない方に分けて集計した結果を以下に示します。

1. 主観的な経済状況の変化

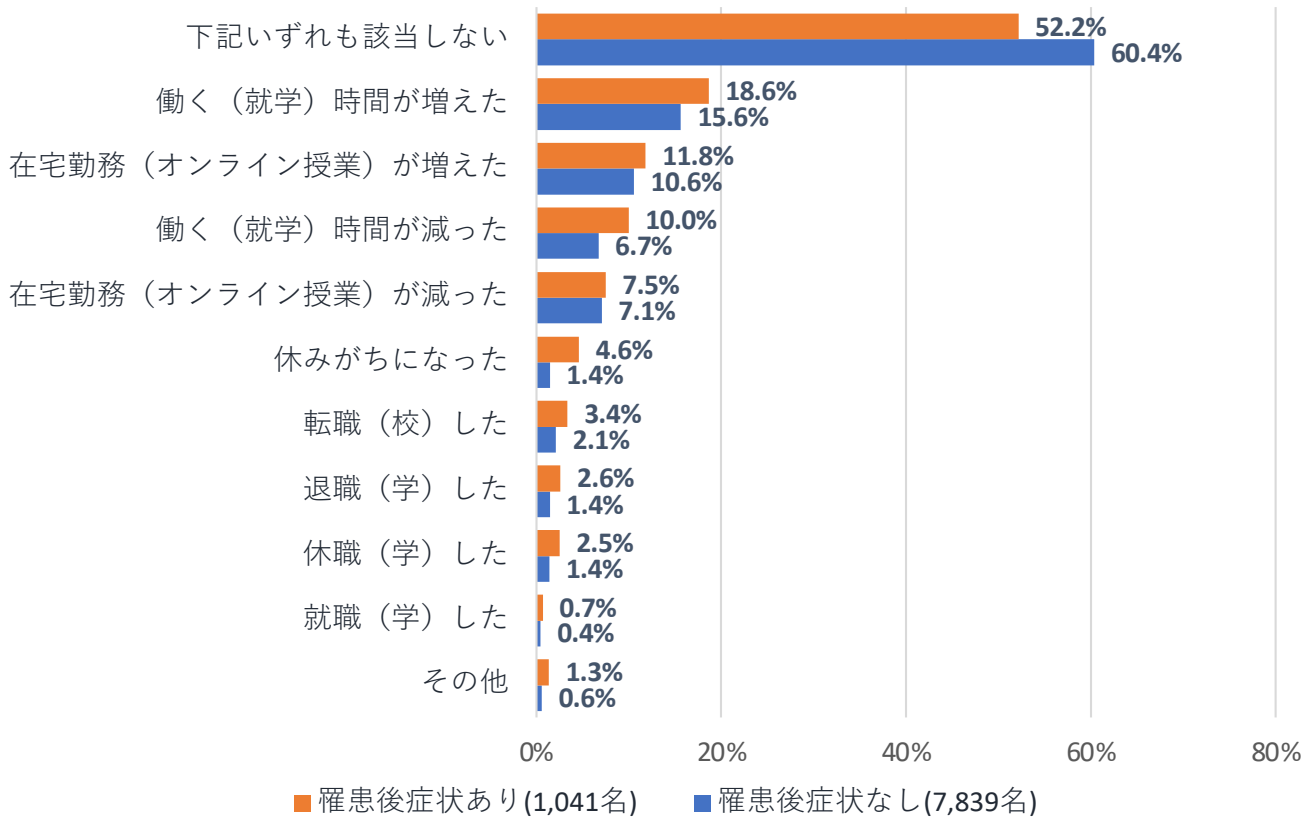
新型コロナウイルス感染前と比べて、経済状況が悪くなった・とても悪くなったと感じている方の割合は、罹患後症状のある方が合計で25%と、罹患後症状のない方の18%に比べて高い結果となりました。



2. 就業・就学状況の変化

新型コロナウイルス感染前と比べて、就業・就学状況の変化があったと回答した人は、罹患後症状のある方では、ない方に比べて約8%高い結果となりました。罹患後症状のある方はない方に比べて、働く（就学）時間が増えたあるいは減った、在宅勤務（オンライン授業）が増えたあるいは減った、休みがちになった、転職（校）した、退職（学）した、休職（学）したと回答した人が多い結果でした。

就業・就学状況の変化

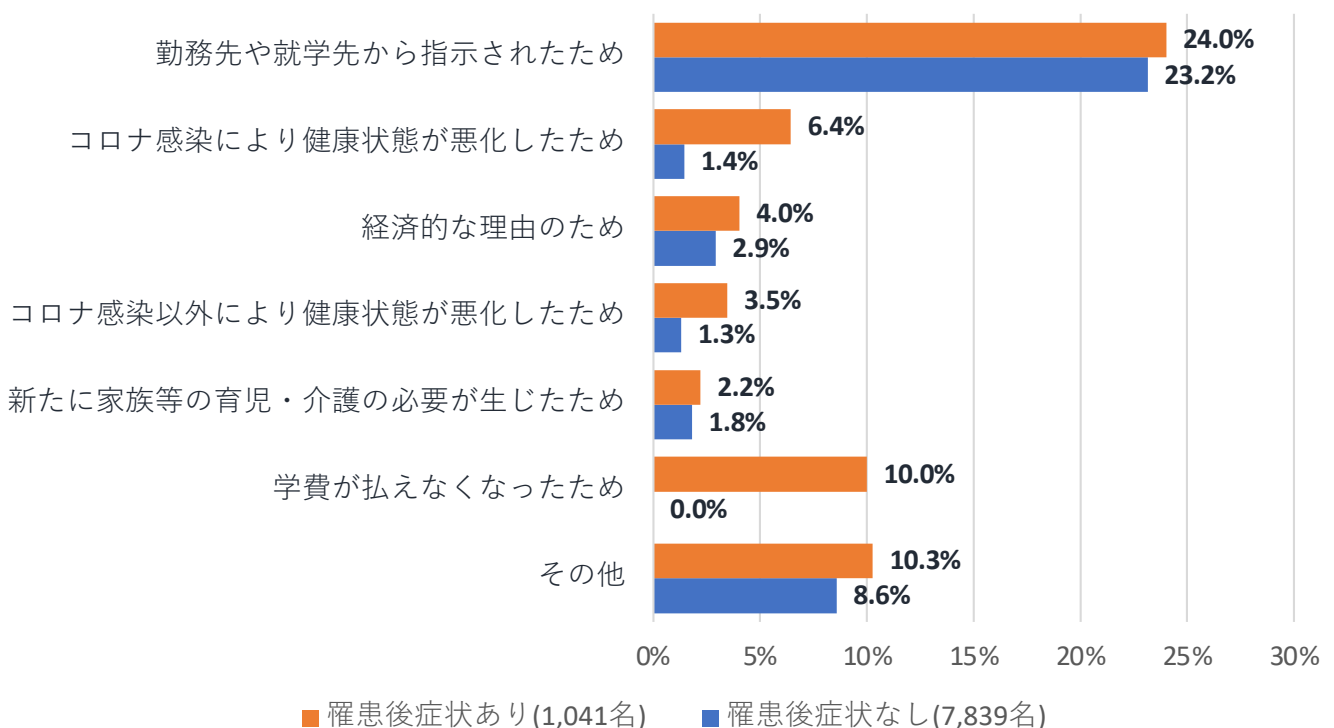


就業・就学状況の変化の理由

感染者のうち、就業・就学状況の変化があった主な理由として、勤務先や就学先から指示されたという理由が罹患後症状の有無にかかわらず約25%を占めました。

罹患後症状ありの方はない方比べて、健康状態の悪化や経済的な理由がより多い結果となりました。

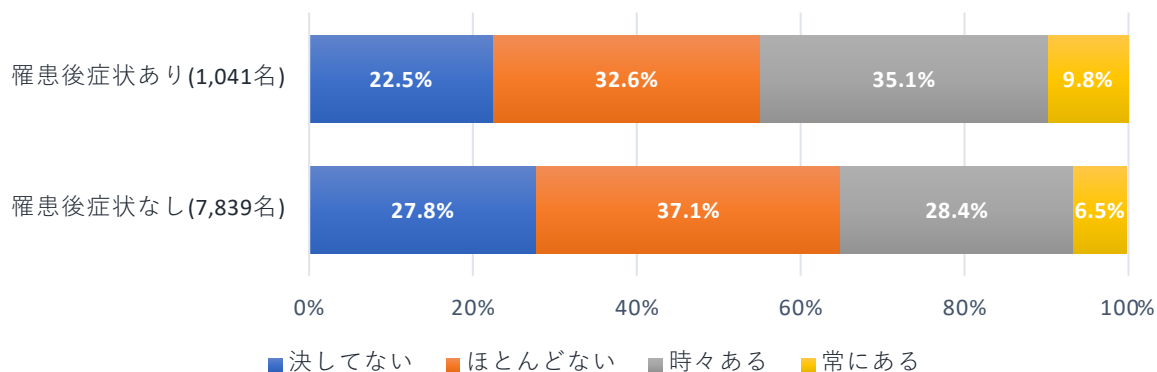
就業・就学状況の変化の理由



3. 孤独感

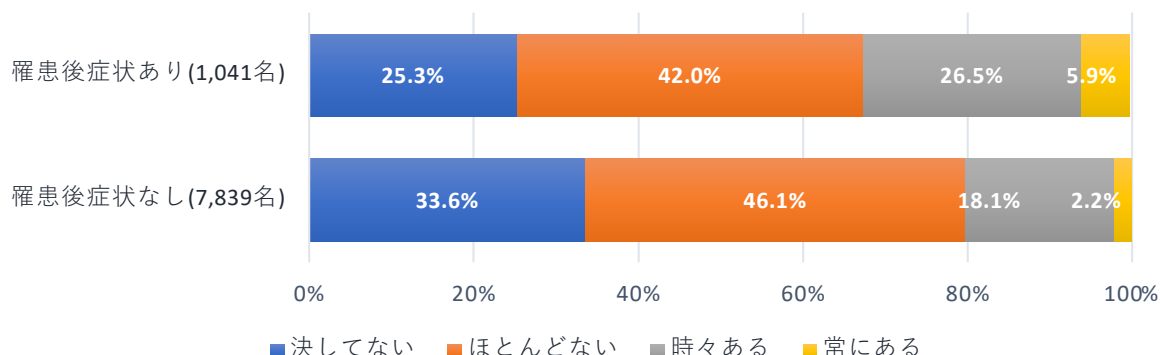
新型コロナウイルス感染者の方に、現在の孤独感について伺いました。「自分には人との付き合いがないと感じることが時々ある、または常にある」と回答した人は、罹患後症状のある方で約5割と、罹患後症状のない方の3割強に比べて高い結果となりました。

自分には人との付き合いがないと感じることがありますか？



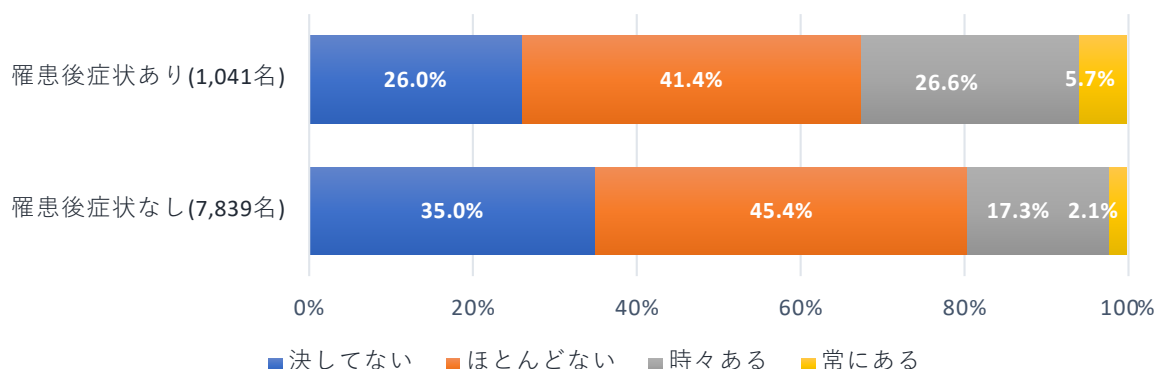
「自分は取り残されていると感じることが時々ある、または常にある」と回答した人は、罹患後症状のある方で約3割と、罹患後症状のない方の2割と比べて高い結果となりました。

自分は取り残されていると感じることがありますか？



「自分は他の人たちから孤立していると感じることが時々ある、または常にある」と回答した人は、罹患後症状のある方で約3割と、罹患後症状のない方の2割と比べて高い結果となりました。

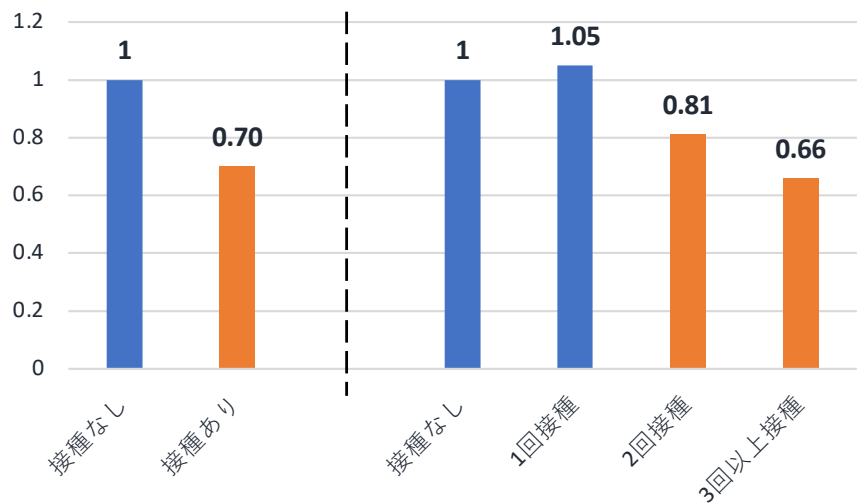
自分は他の人たちから孤立していると感じることはありますか？



1. ワクチン接種と感染

新型コロナワクチンを接種した人では、接種していない人より、新型コロナウイルスに感染する頻度は3割少ない結果でした。接種回数別にみると、未接種の方に比べて2回接種した人では2割減、3回以上接種した人では3割減でした。

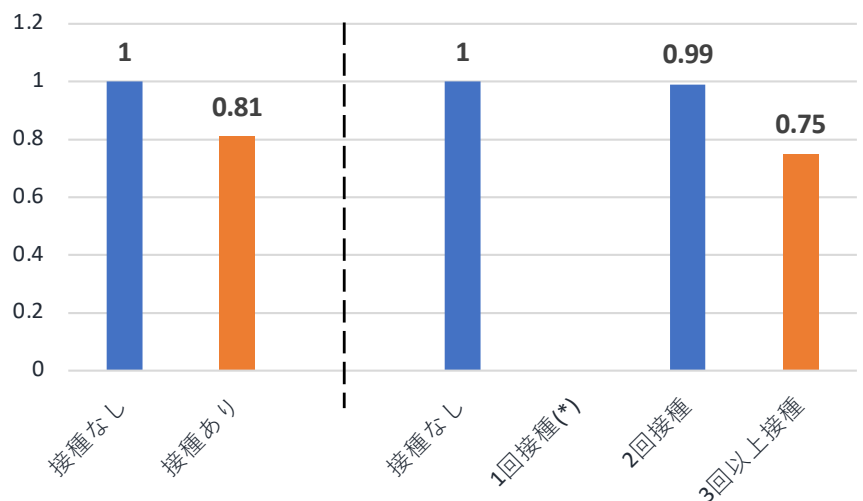
未接種者を1とした時の接種者の感染する頻度



2. ワクチン接種と罹患後症状

新型コロナウイルス感染者のうち、新型コロナワクチンを接種した人では、接種していない人より、罹患後症状の頻度が2割少ない結果でした。接種回数別にみると、未接種の方に比べて3回以上接種した人で2.5割減でした。

未接種者を1としたときの罹患後症状の頻度



(*) 1回接種の人の人数が少ないため、信頼に足る結果を算出できませんでした。

※この調査はワクチンの効果を検証する調査ではないため、その効果を厳密には判定できません。

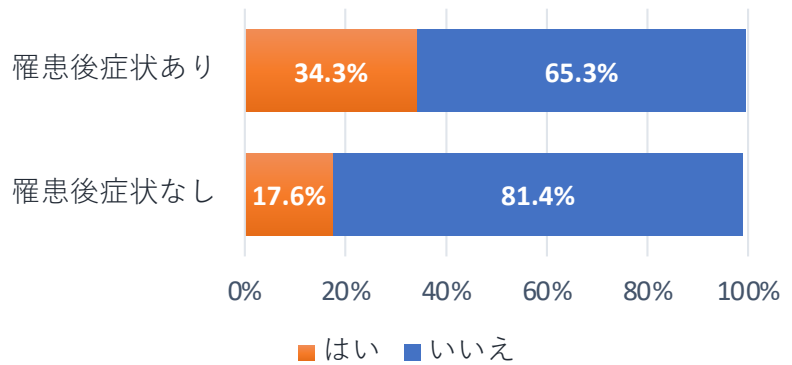
加齢による心身の変化（50歳以上の方による回答結果）

以下の質問は、50歳以上の感染者の方のうち、罹患後症状のあった2,212名、罹患後症状のなかった268名に伺いました。

1. 体重減少

回答時の過去半年の間で、2～3kgの体重減少があった人は、罹患後症状のある方で3割と、罹患後症状のない方の2割弱に比べて高い結果となりました。

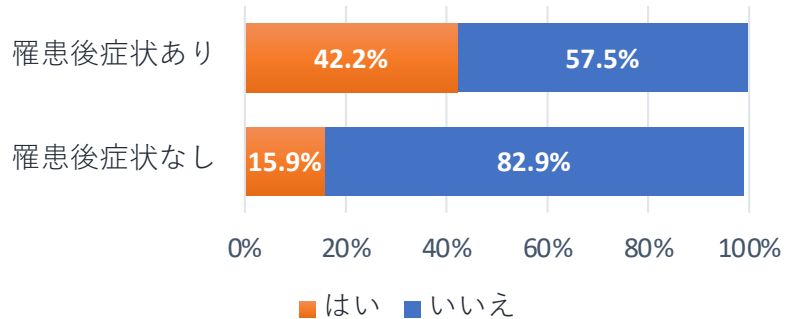
6ヶ月で2-3kgの体重減少がありましたか？



2. 歩行速度の低下

以前に比べて歩行速度が遅くなってきたと感じた人は、罹患後症状のある方で4割と、罹患後症状のない方の1.5割に比べて高い結果となりました。

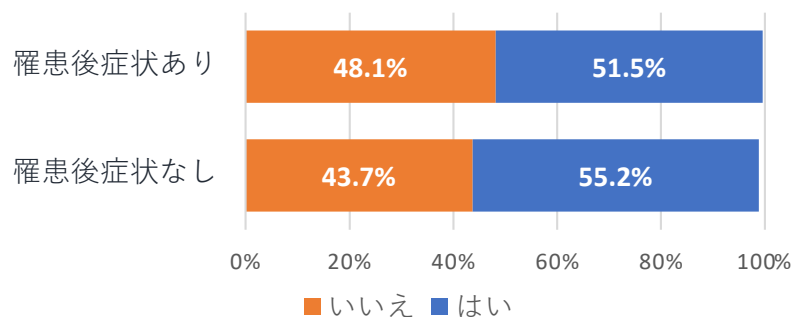
以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思いますか？



3. 身体活動量の低下

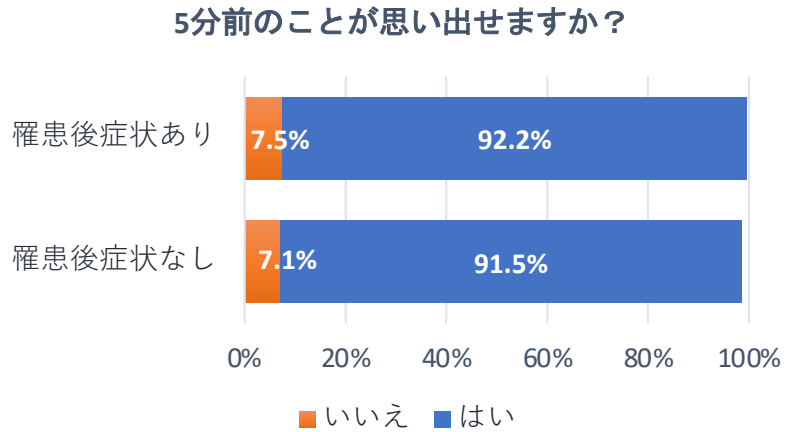
ウォーキングなどの運動を週に1回以上している人は、罹患後症状ありの方、罹患後症状のない方ともに5割強でしたが、罹患後症状のある方でやや低い結果となりました。

ウォーキングなどの運動を週に1回以上していますか？



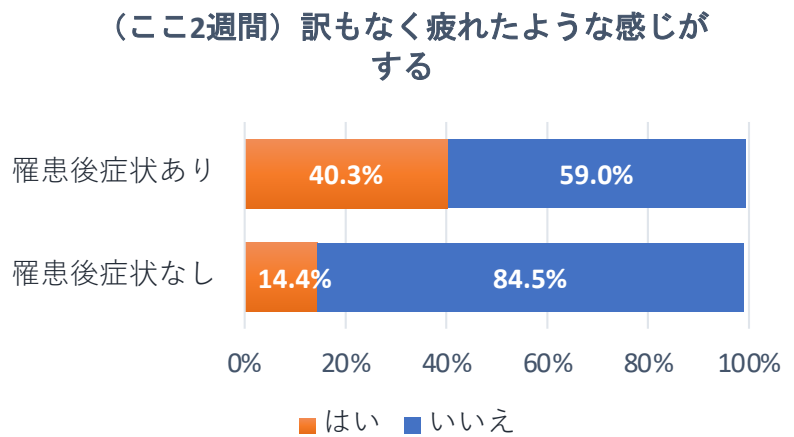
4. 認知機能の低下

5分前のことが思い出せない人は、罹患後症状ありの方とない方では大きな違いはありませんでした。



5. 疲労感

回答時の過去2週間に訳もなく疲れたような感じがすると回答した人は、罹患後症状ありの方で4割と、罹患後症状のない方の1.5割に比べて高い結果となりました。



品川区コロナ禍における区民の健康に関する調査報告書
令和5年10月

発行：国立国際医療研究センター国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター